

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3591500024		
法人名	株式会社M・C・C		
事業所名	グループホーム香雪		
所在地	周南市東一の井手750-8		
自己評価作成日	平成29年1月28日	評価結果市町受理日	平成29年5月23日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成29年3月13日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎年納涼祭や運動会、忘年会や素麺流しなど、季節に合わせた行事に力を入れており、花見やビアガーデン、カラオケなどの外出行事も取り入れ御好評を頂いている。行事に御家族を御招待したり、その時の写真を添えて御様子をお知らせしている。受診は原則職員が送迎・付添いを行い、日々の御様子や気になる事を詳細に主治医に伝え、医療機関との連携を図っている。また看護師による健康管理を行い、利用者様の体調管理と健康維持に努めている。地域の自治会に加入しており、清掃活動など地域行事への参加や慰問の受け入れを積極的に行っている。毎月の請求時に施設便りや行事案内、利用者様の写真、生活記録簿、日々の御様子をお知らせする手紙などを同封し、資格を補うミラーを設置して転倒・事故防止に努めている。また次亜塩素酸水を使用した加湿器・噴霧器を設置、感染症予防に努めている。実際にここ数年間は施設内での感染症は見られない。トイレや脱衣所の前傾姿勢支持バーや浴室の安全回転盤など、機能低下を補う工夫を行っている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

食事の献立や食材は、外部委託で、三食とも調理済で届けられ、事業所では盛り付けや温めなどをしておられます。器や盛り付けで見た目美味しく食べられるように工夫されている他、寒い季節には、毎週1回、地物鮮魚の刺身を取り寄せられたり、外出(季節の花見や動物園)時に、弁当を購入して食べられたり、季節行事に合わせた料理やビアガーデンでの食事など、利用者が食事を楽しめるように、いろいろ工夫されて支援しておられます。生け花教室や音楽セラピー、ハロウィンやクリスマス会での職員の子どもやその友だちとの交流、テレビやDVD視聴、歌を歌ったり、ゲームをしたり、新聞たみや畑づくり、テーブル拭きや洗濯物たたみなど、楽しみごとや活躍できる場面をつくり、利用者が喜びや張り合いのある暮らしができるよう支援に取り組まれています。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている (参考項目:12. 13)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:29)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を各ユニット入口に掲示し、職員への周知を図っている。また毎年ミーティングにて理念の見直しを行い、理念に込めた想いや意義を再確認している。	地域密着型サービスとしての事業所理念を事業所内に掲示している。管理者、職員は、ミーティングで話し合っ作成した介護理念を、各ユニット入口に掲示して共有している。 1. 私たちは、外出を大切に心身の維持向上に努めます。2. 私たちは、ご利用者の気持ちに寄り添い、その人らしく余生を送って頂けるよう、お手伝いします。3. 私たちは、笑顔溢れる明るい家庭作りを目指します。という3つの大項目、8つの小項目の目標を介護理念とし、共有して実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、地域の清掃活動や文化祭などへ参加している。地域の演劇ボランティアや保育園児の慰問などもあり、地域との繋がりを継続している。	自治会に加入し、地域の清掃活動に職員が参加している。年1回、地域の演劇ボランティアが来訪し、利用者で交流している。事業所の行事(納涼祭、忘年会)に地域の人が参加している他、年2回実施している避難訓練に、地域住民2名が参加している。高校生の実習を受け入れている他、地域の人がいつでも来訪できるように開放している。利用者は周辺の散歩時に、出会った地域の人と挨拶を交わしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	利用者の家族、民生委員、近隣の方の施設見学等を通じ、認知症の方の理解や支援方法を地域の方々に発信している。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	職員全員で自己評価に取り組み、改善に向けて取り組んでいる。また外部評価の結果については全体会議にて職員に周知の上、御家族にお知らせすると共に運営推進会議でも説明・報告を行っている。	評価するための書類を常勤職員に配布して、記入してもらい、管理者と主任でまとめている。前回の外部評価結果を受けて、目標達成計画を立て、改善に向けて努めているが、サービス向上に活かすまでには至っていない。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・評価の意義や項目の理解</li> <li>・全職員での評価の取り組み</li> <li>・評価を活かす取り組み</li> </ul>

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的(2ヶ月に1回)に開催し、利用者の状況や行事の様子、運営状況などの説明を行っている。出席者からの意見は取りまとめ職員全体会議にて検討を行い、今後のサービス向上に活かす様努めている。	会議は2ヶ月に1回、1時間程度開催している。運営状況や利用者の状況、活動などを報告し、質疑応答している。サービス向上に活かすまでの意見はなく、会議を活かした取り組みにはなっていない。	・会議を活かすための会議の持ち方の検討
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市担当職員に運営推進会議に出席して頂いており、こちらの現状報告と共に、意見・助言を頂いている。また質問等があれば、電話や直接こちらから出向いて教えて頂いている。	市担当者とは運営推進委会議時や、直接出向いたり電話で情報交換している他、相談して助言を得ているなど、協力関係を築くように取り組んでいる。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的な内部研修を行ったり外部研修に参加する事で、代表者及び全ての職員が身体拘束について正しく理解し、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	職員は、内部研修で身体拘束について学び、正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関の施錠はしていない。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修・外部研修において、定期的に学ぶ機会を持ち、虐待防止に努めている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修において、制度について学ぶ機会を設けている。また、利用者の中に成年後見制度を利用されている方もいる。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書面を元に質疑応答を重ね、互いの理解を深めている。契約の締結や解約、改定の際は、十分な説明を行い、同意書に署名・捺印を頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的に家族会を開催し、意見や要望を職員全体で話し合って運営に反映させている。また苦情相談窓口を設置し、周知すると共に常に意見・要望を受け付ける体制を整えている。	相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め、契約時に家族に説明している。面会時や年2回の家族会時、電話等で家族から意見や要望を聞いている。毎月、事業所だよりに添えて、個別の生活記録簿や写真にコメントしたものを送付して、利用者の日常の様子が分かるように伝え、家族が意見を言いやすいように工夫している。家族からの要望で外食を実施している。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の申し送りや職員会議など、職員から意見や提案を聞く機会を設け、検討を行ってその後の運営に反映させている。申し送りノートを常備して、自由に意見を書き込めるようになっており、その都度検討を行っている。また、契約更新に合わせて個別に面談を行っている。	管理者は月1回の全体会議や朝夕の申し送り時、年2回の個人面談で職員の意見や提案を聞く機会を設けている他、日常業務の中で聞いている。シーツ交換の大変さから、シーツをボックスシーツに変更したり、掃除の効率化を図るための改善など、職員の意見を反映している。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の自己目標の達成状況、役職者の評価を踏まえて定期的に昇給を行っている。また職員の勤務に対する不安や悩みなどの相談を受け付け、働きやすい環境作りに努めている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は自己目標を設定し・定期的な見直しを行い、上司はその実績評価や助言を行って、やりがいを持って働けるように努めている。また毎月の内部研修や外部研修への参加機会の提供により、ケアの質の向上に努めている。	外部研修は、管理者が管理者研修、実践者研修、認知症研修などに参加している。内部研修は、年間計画を立て、月1回の全体会議の中で、勉強会を実施している。認知症研修(グループホームにおける認知症ケア、家族の気持ちの理解など)と一般研修(食中毒予防、感染所予防、介護技術など)に分け、管理者や職員が講師を務めて行っている。欠席の職員には資料を配布して学べるように支援している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近郊の他グループホームと運営推進会議に相互に出席したり、グループホーム連絡協議会主催の合同研修会に参加する事で、外部との交流・意見交換を行い、日々のサービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	御本人・御家族との面談にて、不安や要望などを直接お聞きしてケアに反映させている。また、御家族の協力を得ながら、徐々に施設での生活に馴染め、安心して生活できる様に配慮している。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族との面談において、不安や要望などをひとつずつ丁寧に説明する事で、少しでも御家族の懸念が解消されるよう努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御本人・御家族の現状把握に努め、本当に必要なサービスをカンファレンスにて検討している。また必要に応じて特別養護老人ホームや療養型の病院など、他の福祉医療機関についての説明を行っている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除・調理等、日常生活において御本人のしたい事・出来る事を職員と一緒にしながら生活をして頂いている。実際にこちらが教わる事も多く、感謝の気持ちを伝える事を忘れないようにしている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	誕生日会や忘年会、ソーマン流しなどの施設行事には御家族にお便りを出し、お誘いしている。また、面会時間の設定は行わず、いつでも気軽にお越し頂ける様配慮している。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御本人の気持ち・要望を大切に、帰省・お墓参りなどに気軽に掛けられる様に、御家族と連絡・調整を行うなどの支援を行っている。また、個人のプライバシーには配慮しつつ、気軽に面会をして頂ける様支援している。	家族の面会や親戚の人、友人、教え子などの来訪がある他、馴染みの訪問美容院の利用などの支援をしてる。家族の協力を得て、外泊や外食、ドライブなど、馴染みの人や場との関係が途切れないよう支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	運動会、忘年会、カラオケ大会など、親睦行事を多数計画・実施している。また利用者間の関係性を把握し、席の位置にも配慮している。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院等の理由により、退所される方の退院後の入所先の紹介や再入居の相談を行っている。また退所後も必要に応じて個別に相談を受付けている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、言動や表情から御本人の思いや希望、意向の把握に努めている。困難な場合は御家族と相談し、ケアカンファレンスにて本人本位に検討を行っている。	入居時の基本情報やアセスメントシートを活用している他、日々の関わりの中で、利用者の様子や言葉などを記録し、思いや意向の把握に努めている。困難な場合は、本人の表情からおしはかかって、職員間で話し合ったり、家族から情報を得て、本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御本人・御家族をはじめ、面会に来られた方からの話を基に、御本人の生活歴や人柄などを踏まえたケアを行っている。また、入居前のサービス提供事業所とも連絡を取り、そのときの状態も把握する事で、日々のケアに活かしている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	集団生活に当てはめず、個々の生活ペースを尊重し、その人らしい生活が維持できるよう配慮している。また、今までできたことは継続してできる様、常に自立支援を心掛けている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御本人・御家族・主治医とも相談の上、その人らしく自立した日常生活を送ることができる様、ケアカンファレンスで検討し、介護計画に反映・作成している。	全体会議の後、ユニット毎にカンファレンスを実施し、本人の思いや家族の意向、看護師や主治医の意見を参考にして、利用者を担当している職員を中心にして話し合い、介護計画を作成している。サービス担当者会議で話し合っ、3ヶ月毎の見直しをしている他、利用者の現状に変化があれば、その都度見直しをしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録・申し送りノートなどを活用し、職員間で情報を共有している。またその情報をもとにケアカンファレンスを行い、介護計画の評価・見直しを行っている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診時には付き添いを行い、入院時には御家族が遠方等の事情や意向に応じて、洗濯物の受け取りや買い物などに対応している。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の演劇ボランティアや保育園の慰問を受入れている。また、毎年の忘年会や運動会では、歌唱や余興に利用者自らも参加して頂き、御本人・御家族からも好評を頂いている。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	御本人・御家族の意向を尊重し、かかりつけ医への受診を支援している。体調不良時には早期受診に努め、医療機関と連携して早期回復への取り組みを行っている。受診結果はその都度御家族と全職員へ報告を行い、今後のケアに活用している。	利用者それぞれのかかりつけ医の他、協力医療機関をかかりつけ医とし、受診の支援をしている。協力医療機関や他科受診などは、事業所で受診の支援をし、情報を家族に伝えている。年2回、利用者が訪問歯科診療と口腔指導を受けている。夜間や緊急時には、管理者や看護師の指示や協力を得て、救急車での対応をしている。家族との契約で主治医を特定の病院にした場合、月2回の訪問診療がある他、看取り、入院などの支援があり、現在4名の利用者が対象となっている。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師とは、勤務以外でも24時間連絡がとれる体制を取っており、夜間においても利用者から体調不良の訴えやバイタルの異常・特変などがあった場合、看護師と連携し適切な対応が取れるようにしている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報提供書を作成し、病院担当者へ説明を行っている。入院中も御本人への面会や、御家族や病院担当者との連絡を定期的に行い、経過や今後の対応について情報交換をしている。退院時には病院から情報提供書を頂き、以後のケアに役立てている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けた方針については契約時にも御本人・御家族に説明を行っているが、実際に対象となる以前から主治医・御本人・御家族と話し合い、計画を立てている。また、定期的に職員全員へその時の対応について周知を図っている。	重度化や終末期に向けた方針について、事業所ですることができる対応などを、契約時に家族に説明している。実際に重度化した場合は、その都度、家族や主治医と話し合い、入院や他施設への移設も含めて方針を決め、共有して支援に取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	職員全員が一人ひとりの心身状況を把握し、事故の防止に努めている。ヒヤリハット報告については、検討会議を行って再発予防に努めている。また、近隣の消防署に協力を頂き、定期的に救急救命講習を実施したり、自治会主催の講習へ参加している。	事故が発生した時には、ヒヤリハット、事故報告書に記録し、月1回の全体会議で検討している。内部研修で緊急時の対応について学んでいるが、応急手当や初期対応の定期的な訓練は実施しておらず、全職員が実践力を身につけるまでには至っていない。	・全職員が実践力を身につけるための応急手当や初期対応の定期的な訓練の実施
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災マニュアルを作成し、定期的に内部研修や防災訓練を行っている。また、訓練の際には消防署員立会いの元、昼・夜を想定した訓練を行うと共に、近所の方にも参加をお願いしている。	防災マニュアルがあり、年2回、消防署の協力を得て、昼、夜間想定火災時避難訓練、通報訓練、消火訓練を実施している。訓練には、地域住民2名の参加を得ているが、災害時での地域との協力体制を築くまでには至っていない。	・地域との協力体制の構築
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	内部研修で取り上げている。御本人の希望を尊重し、御自分でできない事については、自尊心を傷付けない様、さり気ない言葉掛け・介助を心掛けている。	職員は、内部研修でプライバシーの保護について学び、利用者の思いを尊重して、尊厳を守り、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。個人記録の取り扱いには気をつけている。守秘義務は徹底している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	レクリエーションへの参加や生活の中での役割作りなど、御本人の想いを尊重した支援を行っている。また、衣服の選択などは可能な限り御本人の意向を尊重し、その人らしさが維持される様配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	集団生活の流れに当てはめず、一人ひとりの生活リズムを大切に、日々を穏やかに楽しく過ごせる様支援している。表情や言動から思いを察して、安心できる声掛けを心掛けている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧品の購入や、訪問美容師によるカラーリング・カット、希望者は美容院へ出掛けてのパーマなど、御本人が希むサービスを受ける事ができる様、支援している。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材や外食行事など、楽しく食事ができる様な行事を取り入れている。花見弁当や忘年会の鍋など、毎年好評を頂いている。また、御本人の希望に応じて調理や盛り付け、後片付けなどを職員と一緒にやっている。	食事の献立や食材は外部委託で、三食とも調理済みで届き、事業所では、盛り付けや温めをしている他、ご飯を炊いたり、汁物の調理をしている。器や盛り付けで、見た目からも美味しくなるように工夫している。利用者は、テーブル拭き、お盆拭き、下膳などできることを職員と一緒にしている。寒い季節には、毎週金曜日の近所のスーパーマーケットからの調味料(牛乳、マヨネーズ、乳製品、ソースなど)の配達日に合わせて、地物鮮魚の刺身を取り寄せている。外出(季節の花見や動物園)時に弁当を購入して食べたり、季節行事でちらし寿し、焼きそば、たこ焼き、なべ料理などにしたり、健康ランドのピヤガーデンで食事をしているなど、利用者がいろいろな場面で食事を楽しめるように支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事量と水分摂取量を生活記録簿に記録し、職員間で情報を共有している。摂取量の少ない方や自立摂取の難しい方には、自立度に応じた介助を行い、必要な栄養の摂取に努めている。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で出来る方は見守り、出来ない方には、声かけ・誘導を行うなど、個別の状態に応じた口腔ケアを行っている。半年に1度は訪問歯科による口腔内のチェックと指導をお願いしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレ誘導表を活用し、一人ひとりの排泄パターンを把握して声掛け・誘導を行う事で、トイレでの排泄や自立に向けた支援を行っている。現在ほとんどの方が、トイレでの排泄を行っている。	排泄チェック表を活用して、排泄パターンを把握し、一人ひとりに合わせた声かけや誘導で、トイレでの排泄ができるように支援している。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	状況を見ながら水分補給を促したり、レクリエーションや体操など適度な運動を取り入れている。また、医師・看護師と連携を行い、排便時の姿勢を工夫したり、必要に応じて腹部マッサージや服薬調整を行っている。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	利用者の希望や体調に応じて入浴できるよう配慮している。入浴中は利用者との会話や歌唱などのコミュニケーションを図り、その時間を楽しくするように配慮している。季節に応じて柚子湯や入浴剤を活用している。	入浴は毎日、13時30分から16時30分ころまでの間可能で、利用者の希望や体調に合わせて2日に1回は、ゆっくり入浴できるように支援している。利用者の状態に応じて、シャワー浴、足浴、フットマッサージ、清拭などで対応している。入浴したくない人には、職員が交代したり、言葉かけに工夫して入浴できるように支援している。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムを把握し、それに合わせて居室で休息がとれるよう支援している。睡眠時は定期的に巡視し、状態を確認している。また快適に過ごせるよう、エアコンや加湿器を活用し、室温・湿度にも配慮している。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	使用中の薬の情報を提示し、効能・副作用について職員全員が把握している。また、薬はできるだけ一包化してもらい、名前・日付を明記することにより、誤飲防止に努めている。薬を準備する際は、複数の職員で確認を行っている。薬の変更時はその都度職員全員に報告している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居前面談にて、生活歴や趣味、要望等をお聞きし、御本人の意向に応じた生活の中での役割作りや、外食・カラオケなどの楽しみ事など、日々張り合いの持てる生活が送れる様支援している。	テレビ(ニュース、情報番組、時代劇など)視聴、DVD(体操、時代劇、歌)視聴、童謡や唱歌、軍歌などを歌う、カラオケ、ラジオ体操、ボール投げ、新聞や週刊誌を読む、将棋、ビンゴゲーム、生け花教室、音楽セラピー、節分の豆まき、ひな祭り、高校生と一緒にソーメン流し、七夕祭りの飾りつけ、運動会、ビヤガーデン、ハロウィンとクリスマス会で職員の子とその友だちとの交流、事業所の納涼祭や忘年会で地域の人や家族との交流、誕生会では職員の手づくりケーキ、新聞たたみ、畑づくり、テーブル拭き、お盆拭き、下膳、洗濯たたみなど楽しみごとや活躍できる場面をつくり、利用者が喜びや張り合いを持って暮らせるように支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	御本人の希望に応じて散歩や買い物などを支援している。またお寺参りや美容院、自宅の草刈りなど、御家族等との連絡・調整を図り、支援している。	散歩や買い物、花見(桜)、動物園、健康ランド(ビヤガーデン)に出かけている他、家族の協力を得て、外食、外泊、日帰りドライブなど、利用者が戸外に出かけられるように支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は普段は事務所で管理しているが、買い物の際など、希望に応じて御本人に手渡し、御自分で支払える様支援している。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて御家族と連絡を取っている。電話の際、難聴で会話が困難な場合は、御本人・御家族同意のもと、職員が間に入って支援を行っている。また、手紙のやりとりも自由に行われており、希望により代筆や投函の代行なども行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や踊り場には季節に応じた飾り付けを行っている。リビングにはリラクゼーション音楽を流し、行事の写真も多数掲示している。リビングの窓からの眺望も良く、四季折々の景色を見ながら気持ちよく過ごせる様に配慮している。	リビング、ダイニングには大きな窓があり、自然の光が差し込んで明るく、広々としている。窓からは、海や市内の家々、樹木を眺めることができ、季節の移り変わりを感じることができる。畳のコーナーがある他、テレビやテーブル、ソファや椅子などをゆったりと配置しており、利用者が思い思いに過ごせる居場所づくりをしている。壁面には行事の写真や季節に合わせたものを飾り、玄関カウンターに季節のものを置いて季節感を採り入れている。事業所内は、職員が毎日清掃して清潔を保持し、温度、湿度、換気に配慮して、利用者が居心地よく過ごせるように支援している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファの座る場所など、それぞれにお気に入りの場所があり、思い思いに過ごされている。リビングの側には和室もあり、気の合った方同士で会話をしたり、独りになれるスペースとしても活用している。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御本人の思い出の品や御家族の写真など、私物の持ち込みを推奨している。御本人の希望を考慮してレイアウトの変更を行うなど、利用者が落ち着ける環境作りを支援している。	テレビ、ラジカセ、机、テーブル、ハンガーラック、プリザーブドフラワー、鉢植の花、アレンジ花、衣装ケース、ソファと時計、生活用品など使い慣れたものや好みのものを持ち込んで、家族の写真や自分の作品を飾って、安心して過ごせるように工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内は全面バリアフリーとなっており、手摺りやスロープ、エレベーターも完備されて、安全かつ自由に生活して頂ける様な環境が整備されている。また、個別に必要な支援を御本人の自尊心を傷つけない様配慮しながら行っている。		

## 2. 目標達成計画

事業所名 グループホーム香雪

作成日：平成 29 年 5 月 23 日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	目標達成計画を立て、改善に向けて努めているがサービス向上に活かすまでには至っていない。	全職員に自己評価及び外部評価の意義をしっかりと理解してもらい、サービス向上には何が必要かを話し合う時間を設け職員全体の意識改革を行う。	全職員に自己評価及び外部評価の意義を説明し各自で自己評価に取り組み、その意見を集約して評価を行い今後の取り組みに生かす。全体会議で改善点を抽出し取り組むようにする。評価結果は、運営推進会議で報告し、ご家族へ送付する。	12ヶ月
2	5	運営推進会議に参加して頂いているが、運営状況や利用者の状況を口で説明するだけで、本当に理解して頂いているか疑問である。	運営推進会議出席者に、職員が介護している所を実際に見ていただいたり、イベントの日には招待し、一緒に雰囲気を楽しんで頂くことで、自施設の理念や状況をしっかりと目で理解して頂く。	2ヶ月に1度開催しているが、運営状況や利用者の状況活動などの報告だけでなく、イベントなどに招待し継続した関係を構築していくようにする。	12ヶ月
3	35	全体会議で毎回内部研修は行っているが、全職員が実践を身につけるための実際の応急手当や初期対応の定期的な訓練の実施が出来ていない。	内部研修だけではなく、全職員が救急救命講習、外部研修会を積極的に受講し、職員同士で情報交換を行いながら知識を高めていく。	ヒヤリハット報告や事故報告事例を活用し、内部研修を行うようにし、自治会主催の救急救命講習への参加や外部研修会への斡旋をするようにする。	12ヶ月
4	36	消防署員立会いの避難訓練を年2回行っているが、地域との協力体制の構築ができていない。	自施設で火災が発生した場合に協力していただけるように地域の方々と日頃からコミュニケーションを深める。地域で行事がある場合は積極的に参加し、地域に貢献する。	年2回、消防署員立会いの避難訓練を行っているが、地域の協力を十分に得られるまでにいたっていないため、課題は残るが今後は地域行事に積極的に参加し、自施設の認知度を高め地域との関わりを深くすることで協力を得られるように努力する。	12ヶ月
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。